

CEAS3.0.5 インストールメモ

目次

1.	はじめに	- 2 -
1.1.	インストールする各種ソフトウェア	- 2 -
1.2.	インストールの準備	- 2 -
1.3.	インストール時に問題が発生した場合	- 3 -
2.	各種ソフトウェアのインストール	- 3 -
2.1.	Windows にインストールする場合	- 3 -
2.1.1.	環境変数の設定	- 3 -
2.1.2.	各種ソフトウェアのインストール	- 4 -
2.2.	Linux にインストールする場合	- 6 -
2.2.1.	インストールに必要な各種ソフトウェアの転送と環境変数の設定	- 7 -
2.2.2.	各種ソフトウェアのインストール	- 8 -
3.	CEAS3.0.5 のインストール	- 10 -
3.1.	Windows にインストールする場合	- 10 -
3.2.	Linux にインストールする場合	- 11 -
4.	設定ファイルの編集	- 11 -
4.1.	設定ファイルの編集	- 11 -
4.1.1.	Windows の場合	- 11 -
4.1.2.	Linux の場合	- 12 -
5.	データベース作成, サンプルデータの設定と動作確認	- 14 -
5.1.	データベース作成と管理者ユーザ登録	- 14 -
5.1.1.	Windows の場合	- 14 -
5.1.2.	Linux の場合	- 14 -
5.2.	CEAS3.0.5 の動作確認	- 14 -
5.2.1.	Windows の場合	- 14 -
5.2.2.	Linux の場合	- 15 -
5.3.	サンプルデータの登録と確認	- 15 -
5.3.1.	サンプルデータの登録	- 15 -
5.3.2.	サンプルデータの確認	- 16 -
6.	その他注意点等	- 16 -
6.1.	アップロードするファイルの文字コードについて	- 16 -
6.2.	ログイン画面のタイトル・画像の変更方法について	- 16 -

作成日	2008/01/07
最終更新日	2008/12/05

1. はじめに

本ドキュメントでは新規に CEAS3.0.5 の導入を行う場合を想定しています。本ドキュメントでは、Windows もしくは Linux の OS をすでにインストール済みのマシンがあることを想定しています。本ドキュメントの手順により CEAS3.0.5 を動作させるために必要なソフトウェア及び CEAS3.0.5 のインストールができます。なお、インストールの所要時間は約 1~2 時間です。

1.1. インストールする各種ソフトウェア

ソフトウェア名	説明
CEAS3.0.5	CEAS3.0.5 のソースファイル
JDK	Java 実行環境
Tomcat	JSP, Servlet 実行用 WEB サーバ
*PostgreSQL	DB サーバ
*MySQL	DB サーバ

*Windows の場合は MySQL, Linux の場合は PostgreSQL をインストールします

Apache のインストール, Apache と Tomcat の連携は本ドキュメントではサポートしていません。Tomcat のみで CEAS3.0.5 を動作させることをサポートとしています。現在, XAMPP および LAMPP によるインストールの確認作業を行っており, インストールの簡便化を目指しています。

1.2. インストールの準備

- インストールに必要な機器と資料の準備
 - Windows もしくは Linux の OS がインストールされたマシン (Linux にインストールする場合は, 動作確認用に Windows マシンも必要です)
 - Windows の場合は zip 形式, Linux の場合は tar, gz 形式の圧縮ファイルを解凍できるソフトウェアをインストールしていること
 - CEAS Community Page からダウンロードした CEAS3.0.5 インストールセット (CEAS3.0.5.zip)
 - CEAS Community Page からダウンロードした CEAS3.0.5 インストールメモ (CEAS3.0.5_installmemo.pdf)
- CEAS Community Page からダウンロードした CEAS3.0.5.zip を解凍し, 中身を確認してください。
 - インストールセットのファイル構成

```

CEAS3.0.5                                     [インストールセットフォルダ]
├─Core1.war                                  CEAS3.0.5 ソースファイル
├─PropertiesEditor.jar                       設定ファイルエディタ
├─Windows
│   ├──configure_db.bat                     データベース接続設定編集バッチファイル
│   ├──configure_ceas.bat                   CEAS3.0.5 設定編集バッチファイル
│   ├──win.bat                              MySQL 接続用ソース適用バッチファイル
│   └─software                              Windows にインストールするソフトウェア一式
│       ├──apache-tomcat-6.0.18.exe
│       ├──jdk-1_5_0_14-windows-i586-p.exe
│       └─mysql-essential-5.0.45-win32.msi
├─sample                                    サンプルデータ設定用
├─src                                        MySQL 接続用ソースファイル
└─Linux
    ├──software                              Linux にインストールするソフトウェア一式
    │   ├──apache-tomcat-6.0.18.tar.gz
    │   ├──jdk-1_5_0_14-windows-i586.bin
    │   └─postgresql-8.1.10.tar.gz
    └─sample                                    サンプルデータ設定用
    
```

以降、解凍したフォルダ (CEAS3.0.5) を [インストールセットフォルダ] と呼びます。

- CEAS3.0.5_installmemo.pdf (このドキュメント) を参照しながらインストール作業を開始してください。

1.3. インストール時に問題が発生した場合

インストールの際に不明な点や問題が発生した場合は、CEAS Community Page の TOP ページの「CEAS に関して」メニューにある「掲示板」にてお問い合わせ下さい。

CEAS Community Page はこちら ⇒ <http://ceascom.iecs.kansai-u.ac.jp/>

2. 各種ソフトウェアのインストール

2.1. Windows にインストールする場合

下記の OS へのインストールを対象としています。

Windows 2000
Windows XP
Windows Vista

下記の OS へのインストールの確認はできています。

Windows 2000 Professional
Windows XP Professional
Windows Vista HomePremium, Windows Vista Business

2.1.1. 環境変数の設定

I. 環境変数の設定

- Windows 2000 の場合

スタートメニュー>マイコンピュータを右クリックし、プロパティを選択します。ウインドウが表示されたら、詳細タブを選択し、環境変数ボタンをクリックします。

- Windows XP の場合

スタートメニュー>マイコンピュータを右クリックし、プロパティを選択します。ウインドウが表示されたら、詳細設定タブを選択し、環境変数ボタンをクリックします。

- Windows Vista の場合

スタートメニュー>マイコンピュータを右クリックし、プロパティを選択します。ウインドウが表示されたら左側にあるシステムの詳細設定をクリックします。ウインドウが表示されたら、詳細設定タブを選択し、環境変数ボタンをクリックします。

II. 環境変数の追加

環境変数ウインドウが表示されたら、ユーザの環境変数の設定で新規ボタンをクリックし、以下の環境変数を追加します。(システムの環境設定に追加しても構いません。)

変数名	変数値
JAVA_HOME	C:¥usr¥local¥Java¥jdk1.5.0_14
PATH	%JAVA_HOME%¥bin
CLASSPATH	.;%JAVA_HOME%¥lib¥tools.jar
TOMCAT_HOME	C:¥usr¥local¥Tomcat6.0

※パスに半角空白などが入ると予期せぬ不具合が起こる可能性があります。そのため、Tomcat などではデフォルトでは「Tomcat 6.0」と空白が入っていますが、このインストールメモでは「Tomcat6.0」とし、半角空白を入れないようにしています。

以降、

JDK インストール先 (C:¥usr¥local¥Java¥jdk1.5.0_14) を [JAVA_HOME]

Tomcat インストール先 (C:¥usr¥local¥Tomcat6.0) を [TOMCAT_HOME]

と呼びます。

2.1.2. 各種ソフトウェアのインストール

I. JDK のインストール

(1) JDK のインストール

JDK の ファイル ([インストールセットフォルダ]¥Windows¥software¥jdk-1_5_0_14-windows-i586-p.exe) をダブルクリックし、インストーラを起動します。

インストール先は[JAVA_HOME] (C:¥usr¥local¥Java¥jdk1.5.0_14) にし、それ以外はインストーラの指示に従ってインストールしてください。

(2) JRE のインストール

JDK のインストールが終了すると、自動的に JRE のインストールが始まります。

インストール先は C:¥usr¥local¥Java¥jre1.5.0_14 にし、それ以外はインストーラの指示に従ってインストールしてください。

(3) JDK の動作確認

スタートメニュー>すべてのプログラム>アクセサリ>コマンドプロンプトを実行します。

『java』と入力して Enter キーを押し、以下のようなメッセージが表示されておらず、Java コマンドのヘルプメッセージが表示されていればインストールは成功しています。

'java' は、内部コマンドまたは外部コマンド、
操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません。

また、『javac』と入力して Enter キーを押し、以下のようなメッセージが表示されておらず、Java コマンドのヘルプメッセージが表示されていれば環境変数の設定も成功しています。

'javac' は、内部コマンドまたは外部コマンド、
操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません。

※もし上記のようなメッセージが表示された場合は、[2.1.1.](#)に戻り、環境変数の設定を見直してください。それでも表示される場合は、一度 PC を再起動してみてください。

II. Tomcat のインストール

(1) Tomcat のインストール

Tomcat の ファイル ([インストールセットフォルダ]¥Windows¥software¥apache-tomcat-6.0.18.exe) をダブルクリックし、インストーラを起動します。

インストール先は[TOMCAT_HOME] (C:¥usr¥local¥Tomcat6.0) にし、それ以外はインストーラの指示に従ってインストールしてください。

(2) SSL コネクタの有効化

[TOMCAT_HOME]¥conf¥server.xml をメモ帳などのテキストエディタで開き、以下の箇所を修正してください。

- ・ 69 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 75 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 81 行目：<!-- を削除.
- ・ 82 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 85 行目：-->を削除.
- ・ 88 行目：8443 を 443 に変更.

(3) 鍵の作成

[インストールセットフォルダ]¥Windows¥ssl.bat をダブルクリックしてください。コマンドプロンプトが起動しますので、以下のように入力してください。

赤字のところは適宜変更してください。

キーストアのパスワードを入力してください: **changeit**

姓名を入力してください。

[Unknown]: **kansai-u**

組織単位名を入力してください。

[Unknown]: **Information Systems Engineering Laboratory**

組織名を入力してください。

[Unknown]: **kansai-u**

都市名または地域名を入力してください。

[Unknown]: **Suita**

州名または地方名を入力してください。

[Unknown]: **Osaka**

この単位に該当する 2 文字の国番号を入力してください。

[Unknown]: **JP**

CN=yamada, OU=JAVA Developer, O=Sbp, L=Akasaka, ST=Tokyo, C=JP でよろしいですか?

[no]: **yes**

<tomcat> の鍵パスワードを入力してください。

(キーストアのパスワードと同じ場合は RETURN を押してください): **changeit**

(4) Tomcat の動作確認

スタートメニュー>すべてのプログラム>Apache Tomcat 6.0>Monitor Tomcat を実行*します。画面右下のタスクトレイに Tomcat のアイコンが表示されるので、右クリックし、Start service を選択します。

ブラウザで <http://localhost:8080/> にアクセスし、Tomcat の画面が表示されればインストールは成功しています。

また、<https://localhost:443/> にアクセスし、Tomcat の画面が表示されれば SSL の設定も成功しています。

※SSL でアクセスした場合、「証明書エラー」という画面が表示されますが、動作上は問題ありません。IE の場合は「このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)」をクリックするとページが遷移します。FireFox の場合は例外に追加することで表示されるようになります。

なお、本格的に運用する場合には、SSL 設定の書籍などを参考に、第 3 者による証明書の発行を行ってください。

※Windows Vista の場合は、事前に以下の設定が必要です。

[TOMCAT_HOME]¥bin¥tomcat6w を右クリックし、プロパティを選択します。互換性タブを選択し、

管理者としてこのプログラムを実行する
にチェックを入れて、OK ボタンを押します。

III. MySQL のインストール

(1) MySQL のインストール

MySQL のファイル ([インストールセットフォルダ]¥Windows¥software¥mysql-essential-5.0.45-win32.msi) をダブルクリックし、インストーラを起動します。インストール画面では以下のように指定してください。

- Setup Type

Custom を選択し Next ボタンをクリック。

- Custom Setup

Change ボタンをクリックし、インストール先を下記のように設定してください。

C:\¥usr¥local¥MySQL¥MySQL5.0

Next ボタンをクリックしてください。

- Install ボタンをクリックするとインストールが開始されます。

(2) MySQL の設定を行います。

インストール終了画面になると、

- Configure the MySQL Server now

と表示されるのでチェックを入れ、Finish ボタンをクリックすると、設定画面が表示されます。

(設定画面が表示されない場合は、スタートメニュー>すべてのプログラム>MySQL>MySQL Server 5.0>MySQL Server Instance Config Wizard を選択してください。)

設定画面では以下のように設定してください。

- Please choose a maintenance option.
Reconfigure Instance を選択し、Next ボタンをクリック。
- Please select a configuration type.
Detailed Configuration を選択し、Next ボタンをクリック。
- Please select a server type.
個人の PC で利用する場合は Developer Machine、サーバで利用する場合は Server Machine を選択し、Next ボタンをクリック。
- Please select the database usage.
Multifunctional Database を選択し、Next ボタンをクリック。
- Please select the drive for the InnoDB datafile, ...
初期選択のまま Next ボタンをクリック。
- Please set the approximate number of concurrent ...
初期選択のまま Next ボタンをクリック。
- Please set the networking options.
初期選択のまま Next ボタンをクリック。
- Please select the default character set.
Manual Selected Default Character Set / Collation を選択し、utf8 を選択し、Next ボタンをクリック。
※国際化対応のため、CEAS では文字コードはすべて UTF-8 に統一しています。
- Please set the Windows options.
初期選択のまま Next ボタンをクリック。
- Please set the security options.
 Modify Security Settings のチェックをはずし、Next ボタンをクリック。
- Execute ボタンをクリックすると設定は完了です。

(3) MySQL の動作確認

スタートメニュー>すべてのプログラム>MySQL>MySQL Server 5.0>MySQL Command Line Client を実行すると以下のように表示されます。

```
Enter password:
```

何も入力せずに Enter キーを押してください。下記のように表示され、コマンド入力待ち状態になっていればインストールは成功しています。

```
mysql>
```

以下のコマンドを入力し、MySQL Command Line Client を終了します。

```
mysql> ¥q
```

2.2. Linux にインストールする場合

下記の OS へのインストールを対象としています。

```
Linux (Fedora Core, CentOS 等)
```

下記の OS へのインストールの確認はできています。

```
Fedora Core4, Fedora Core5
```

```
CentOS4.5 (RAID 構成)
```

2.2.1. インストールに必要な各種ソフトウェアの転送と環境変数の設定

※ I . II . は、Windows マシンから、インストールする Linux マシンにソフトウェアを転送することを意図しています。Linux 上でインストールセットを展開している場合は、cp コマンドなどを使い、必要なソフトウェアを /usr/local/src ディレクトリ内にコピーしてください。

I. /usr/local/src にファイル転送を可能にするため、パーミッションを変更します。

```
# su - root
# chmod 777 /usr/local/src/
```

II. Windows マシンから Linux マシンにソフトウェアを転送します。

FTP, SSH 等でインストールを行う Linux マシンの /usr/local/src ディレクトリ内に、

- [インストールセットフォルダ]¥Linux¥software 内のファイルすべて
- [インストールセットフォルダ]¥Linux¥sample 内のファイルすべて
- [インストールセットフォルダ]¥Core1.war

を転送してください。

III. PostgreSQL 用のスーパーアカウントの作成

```
# useradd postgres
# passwd postgres
2 回パスワードを聞かれるので、パスワードは postgres と設定してください。
```

IV. 環境変数の設定

(1) root の設定

/etc/profile に環境変数の設定を行います。

```
# vi /etc/profile
```

以下をファイルの一番下に追加記述してください。

```
PG=/usr/local/pgsql
export PATH="$PATH":$PG/bin
export PGLIB=$PG/lib
export LD_LIBRARY_PATH="$LD_LIBRARY_PATH": "$PGLIB"
export PGDATA=$PG/data
export MANPATH="$MANPATH":$PG/man
export PGDATESTYLE=iso
export JAVA_HOME=/usr/local/j2se
export TOMCAT_HOME=/usr/local/tomcat
export PATH=$PATH:$JAVA_HOME/bin
```

ファイル更新後、設定を有効にするために以下を実行してください。

```
# source /etc/profile
```

(2) postgres の設定

postgres 権限になり、/home/postgres/.bashrc に環境変数の設定を行います。

```
# su postgres
$ vi /home/postgres/.bashrc
```

以下をファイルの一番下に追加記述してください。

```
export JAVA_HOME=/usr/local/j2se
export TOMCAT_HOME=/usr/local/tomcat
PG=/usr/local/pgsql
export PATH="$PATH":$PG/bin
export PGLIB=$PG/lib
export LD_LIBRARY_PATH="$LD_LIBRARY_PATH": "$PGLIB"
```

```
export PGDATA=$PG/data
export MANPATH="$MANPATH":$PG/man
export PGDATESTYLE=iso
```

ファイル更新後、設定を有効にするために以下を実行してください。

```
$ source /home/postgres/.bashrc
```

/home/postgres/.bash_profile に環境変数の設定を行います。

```
$ vi /home/postgres/.bash_profile
```

以下をファイルの一番下に追加記述してください。

```
export PATH=$PATH:$JAVA_HOME/bin
```

ファイル更新後、設定を有効にするために以下を実行し、root 権限に戻ります。

```
$ source /home/postgres/.bash_profile
$ exit
```

2.2.2. 各種ソフトウェアのインストール

I. JDK のインストール

(1) インストールするディレクトリへ移動します。

```
# cd /usr/local/
```

(2) パーミッションを変更し、インストーラに実行権限を与えます。

```
# chmod 777 /usr/local/src/jdk-1_5_0_14-linux-i586.bin
```

(3) インストーラを起動します。

```
# /usr/local/src/jdk-1_5_0_14-linux-i586.bin
```

(4) [Binary Code License Agreement]が出るので、[スペースキー]を何回か押します。

(5) [Do you agree to the above license terms?]と出れば、[y]を入力して[Enter キー]を押します。

(6) インストールが終わるまで、しばらくお待ちください。

(7) JAVA_HOME を指定しやすいように、シンボリックリンクを張ります。

```
# ln -s jdk1.5.0_14 j2se
```

II. Tomcat のインストール

(1) Tomcat のインストール

```
# cd /usr/local/
```

```
# tar zxvf /usr/local/src/apache-tomcat-6.0.18.tar.gz
```

(2) TOMCAT_HOME を指定しやすいように、シンボリックリンクを張ります。

```
# ln -s apache-tomcat-6.0.18 tomcat
```

(4) Tomcat を起動します。SSL コネクタの有効化

[TOMCAT_HOME]/conf/server.xml を編集し、以下の箇所を修正してください。

- ・ 69 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 75 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 81 行目：<!-- を削除.
- ・ 82 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 85 行目：-->を削除.
- ・ 88 行目：8443 を 443 に変更.

(3) SSL コネクタの有効化

[TOMCAT_HOME]¥conf¥server.xml を編集し、SSL コネクタを有効化します。

```
# vi /usr/local/tomcat/conf/server.xml
```

以下の箇所を修正してください。

- ・ 69 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 75 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 81 行目：<!-- を削除.
- ・ 82 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 85 行目：-->を削除.
- ・ 88 行目：8443 を 443 に変更.

(4) 鍵の作成

```
# /usr/local/j2se/bin/keytool -genkey -alias tomcat -keyalg RSA
```

以下のように入力してください。赤字のところは適宜変更してください。

キーストアのパスワードを入力してください： **changeit**

姓名を入力してください。

[Unknown]: **kansai-u**

組織単位名を入力してください。

[Unknown]: **Information Systems Engineering Laboratory**

組織名を入力してください。

[Unknown]: **kansai-u**

都市名または地域名を入力してください。

[Unknown]: **Suita**

州名または地方名を入力してください。

[Unknown]: **Osaka**

この単位に該当する 2 文字の国番号を入力してください。

[Unknown]: **JP**

CN=yamada, OU=JAVA Developer, O=Sbp, L=Akasaka, ST=Tokyo, C=JP でよろしいですか?

[no]: **yes**

<tomcat> の鍵パスワードを入力してください。

(キーストアのパスワードと同じ場合は RETURN を押してください)： **changeit**

(5) Tomcat を起動します。

```
# /usr/local/tomcat/bin/startup.sh
```

(6) Tomcat の動作確認

Windows マシンからブラウザで [http://\[インストールした Linux マシンの IP アドレス\]:8080/](http://[インストールした Linux マシンの IP アドレス]:8080/) にアクセスしてください。Tomcat の画面が表示されれば、インストールは成功しています。

また、[https://\[インストールした Linux マシンの IP アドレス\]:443/](https://[インストールした Linux マシンの IP アドレス]:443/) にアクセスし、Tomcat の画面が表示されれば SSL の設定も成功しています。

※SSL でアクセスした場合、「証明書エラー」という画面が表示されますが、動作上は問題ありません。IE の場合は「このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)。」をクリックするとページが遷移します。Firefox の場合は例外に追加することで表示されるようになります。

なお、本格的に運用する場合には、SSL 設定の書籍などを参考に、第 3 者による証明書の発行を行ってください。

III. PostgreSQL のインストール

(1) インストールするディレクトリを作成します。

```
# mkdir /usr/local/pgsql  
# chown postgres:postgres /usr/local/pgsql
```

(2) postgres ユーザでインストールを行います。

```
# su - postgres
$ cd /usr/local/src/
$ tar zxvf postgresql-8.1.8.tar.gz
$ cd postgresql-8.1.8
$ ./configure --enable-multibyte=UNICODE --with-odbc --enable-syslog
$ make;make install
```

※国際化対応のため、CEAS では文字コードはすべて UTF-8 に統一しています。

(3) DB の初期化を行います。

```
initdb --encoding=UNICODE --no-locale
```

(4) PostgreSQL サーバを起動します。

```
$ pg_ctl -w -o "-i" start
```

(5) root ユーザに戻り、PostgreSQL サーバの自動起動の設定を行います。

```
$ exit
# echo "su - postgres -c 'pg_ctl -w -o '¥¥¥' -i¥¥¥' start¥'" >>
/etc/rc.d/rc.local
```

※実際には1行で入力してください

3. CEAS3.0.5 のインストール

3.1. Windows にインストールする場合

I. Tomcat を一旦停止します。

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし、Stop service を選択してください。

II. [インストールセットフォルダ]¥Core1.war を[TOMCAT_HOME]¥webapps フォルダにコピーします。

III. Tomcat を起動します。

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし、Start service を選択してください。

次に、MySQL 接続用のソースコードを適用します。

※III～IVの間は初回起動のため、CEAS3.0.5 のソースコードを展開し Tomcat に配置するのに時間がかかります。30 秒ほど時間を置いてください。

IV. Tomcat を一旦停止します。

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし、Stop service を選択してください。

V. MySQL 接続用ソースの適用

[インストールセットフォルダ]¥Windows¥win.bat をダブルクリックしてください。自動的に MySQL 接続用ソースが適用されます。

※上書きしますか? と表示された場合は、a と入力し Enter キーを押してください。

以下のように表示されたら Enter キーを押してください。

```
[info ] Finish.
続行するには何かキーを押してください . . .
```

これでインストールは完了です。

※以下のように表示された場合は [2.1.1.](#) の環境変数の設定, [3.1.](#) の CEAS3.0.5 のインストールの手順を再度確認してください。

```
[error] Not found "Core1" directory.
続行するには何かキーを押してください . . .
```

3.2. Linux にインストールする場合

I. Tomcat を一旦停止します.

```
# /usr/local/tomcat/bin/shutdown.sh
```

II. [インストールセットフォルダ]¥Core1.war を/usr/local/tomcat/webapps にコピーします.

```
# cp /usr/local/src/Core1.war /usr/local/tomcat/webapps
```

III. Tomcat を起動します.

```
# /usr/local/tomcat/bin/startup.sh
```

これでインストールは完了です.

4. 設定ファイルの編集

4.1. 設定ファイルの編集

4.1.1. Windows の場合

I. Tomcat を一旦停止します.

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし、Stop service を選択してください.

II. データベース接続設定の編集

[インストールセットフォルダ]¥Windows¥configure_db.bat をダブルクリックしてください. しばらく待つと、設定ファイル編集用のエディタが起動します. 以下のように変更してください.

```
#PostgreSQL
#driverClassName=org.postgresql.Driver
#url=jdbc:postgresql://localhost:5432/CEASCOREDB
#username=postgres
#password=postgres
#MySQL
driverClassName=com.mysql.jdbc.Driver
url=jdbc:mysql://localhost:3306/ceascoredb?characterEncoding=utf8
username=root
password=
```

プロパティエディタの ファイル>Unicode で保存を選択し、変更を保存してください. 保存したらプロパティエディタを終了してください. (コマンドウィンドウが自動で終了しない場合は、×ボタンをクリックし手動で終了させてください.)

※設定ファイル編集用エディタが起動せず、以下のように表示された場合は [2.1.1.](#) の環境変数の設定, [3.1.](#) の CEAS3.0.5 のインストールの手順を再度確認してください.

```
[error] Not found "Core1" directory.
続行するには何かキーを押してください . . .
```

III. CEAS 設定の編集

[インストールセットフォルダ]¥Windows¥configure_ceas.bat をダブルクリックしてください. しばらく待つと、設定ファイル編集用のエディタが起動します.

p.12-13 の「設定ファイルの説明」を参考にし、設定ファイルを編集してください.

編集が完了したらプロパティエディタの ファイル>Unicode で保存 を選択し、変更を保存してください. 保存したらプロパティエディタを終了してください. (コマンドウィンドウが自動で終了しない場合は、×ボタンをクリックし手動で終了させてください.)

※設定ファイル編集用エディタが起動せず、以下のように表示された場合は [2.1.1.](#) の環境変数の設定、[3.1.](#) の CEAS3.0.5 のインストールの手順を再度確認してください。

```
[error] Not found "Core1" directory.
続行するには何かキーを押してください . . .
```

※なお、CEAS3.0.5 を動作させるだけならば、設定を編集する必要は特にありませんが、必ず確認するようにしてください。

II. III. の編集・保存の操作により、Tomcat に配置した CEAS3.0.5 の設定ファイルに反映されます。

4.1.2. Linux の場合

I. Tomcat を一旦停止します。

```
# /usr/local/tomcat/bin/shutdown.sh
```

II. データベース接続設定の変更

```
# vi /usr/local/tomcat/webapps/Core1/WEB-INF/dataSource.properties
```

以下のように変更してください。

```
#PostgreSQL
driverClassName=org.postgresql.Driver
url=jdbc:postgresql://localhost:5432/CEASCOREDB
username=postgres
password=postgres
#MySQL
#driverClassName=com.mysql.jdbc.Driver
#url=jdbc:mysql://localhost:3306/ceascoredb?characterEncoding=utf8
#username=root
#password=
```

III. CEAS 設定の変更

```
# vi /usr/local/tomcat/webapps/Core1/WEB-INF/classes/jp/ac/ceascore/
configuration2/customConfiguration.properties ※実際には1行で入力してください
```

設定ファイルは Unicode で保存されており、テキストエディタで開くと日本語が文字化けします。p.12-13 の「設定ファイルの説明」を参考にし、設定ファイルを編集してください。

※なお、CEAS3.0.5 を動作させるだけならば、設定を編集する必要は特にありませんが、必ず確認するようにしてください。

設定ファイルの説明

```
#####
#####          ユーザが編集する定数          #####
#####      ※DB の設定は WEB-INF>dataSource.properties      #####
#####
#CEAS index ページ アドレス
#備考：メールなどにリンクとして記載される
CUSTOM_CEASLOGINLINK=http://localhost:8080/Core1/faces/index.jsp
#SSL 利用の場合はこちら↓
#CUSTOM_CEASLOGINLINK=https://localhost/Core1/faces/index.jsp

#メールサーバホスト
```

```

#備考：メール機能を使う場合は必要
CUSTOM_SMTPHOST=localhost

#出席送信許可 IP
#備考：0 から始まる連番とすること
CUSTOM_ATTENDANCEIP0=192.168.0.*
CUSTOM_ATTENDANCEIP1=
CUSTOM_ATTENDANCEIP2=
CUSTOM_ATTENDANCEIP3=
CUSTOM_ATTENDANCEIP4=

#不正アクセス対策 1 一定時間(分)内に同一アカウントが一定回数以上のログインに失敗した時
#FLG1      0…無効、1…有効
#TIME1     一定時間(分)
#COUNT1   同一アカウントのログイン失敗回数(回)
CUSTOM_ILLEGALACCESSFLG1=0
CUSTOM_ILLEGALACCESSTIME1=10
CUSTOM_ILLEGALACCESSCOUNT1=10

#不正アクセス対策 2 一定時間(分)内に同一 IP アドレスから一定回数以上ログインがあった時
#FLG2      0…無効、1…有効
#TIME2     一定時間(分)
#COUNT2   同一 IP のログイン回数(回)
#PERIOD2   アクセスを拒否する時間(分)
CUSTOM_ILLEGALACCESSFLG2=0
CUSTOM_ILLEGALACCESSTIME2=10
CUSTOM_ILLEGALACCESSCOUNT2=10
CUSTOM_ILLEGALACCESSPERIOD2=720

#名列番号を切り取って表示するための開始位置と終了位置
#ex.)NAMENOPREFIXSTARTNO=0,NAMENOPREFIXENDNO=13
#      「01234567890123 シス 00-01 関大太郎」→「シス 00-01 関大太郎」と表示される
#備考：使わない場合はどちらも 0 にすること
CUSTOM_NAMENOPREFIXSTARTNO=0
CUSTOM_NAMENOPREFIXENDNO=13

#####
## これ以降は必要があれば変更すること ##
#####
#科目に設定する授業回数の最大値(回)
#備考：デフォルト値は 50
CUSTOM_MAXCLASSESSIONCOUNT=50

#科目に設定するグループフォルダ数の最大値(回)

```

```
#備考：デフォルト値は 50
CUSTOM_MAXGROUPOFFOLDERCOUNT=50

#お知らせ等の「new」の表示期間(ミリ秒)
#ex.)3 日間=3*24*60*60*1000=259200000(ミリ秒)
CUSTOM_NEWCHECKTIME=259200000

#レポートフィードバック使用時の最大提出可能枚数
#備考：デフォルト値は 30
CUSTOM_MAXIMUMREPORTCOUNT=30
```

5. データベース作成, サンプルデータの設定と動作確認

5.1. データベース作成と管理者ユーザ登録

5.1.1. Windows の場合

I. データベース作成スクリプトファイルを C:¥ にコピーします.

データベース作成用スクリプトファイル ([インストールセットフォルダ]¥Windows¥sample¥createdb.sql) を, C:¥ にコピーしてください.

II. MySQL を起動します.

スタートメニュー>すべてのプログラム>MySQL>MySQL Server 5.0>MySQL Command Line Client を実行すると以下のように表示されます.

```
Enter password:
```

何も入力せずに Enter キーを押してください.

III. データベースを作成し, 履修環境管理者ユーザを登録します.

```
mysql> source C:¥createdb.sql
```

IV. 以下のコマンドを入力し, MySQL Command Line Client を終了します.

```
mysql> ¥q
```

5.1.2. Linux の場合

I. /usr/local/src/createdb.sql のパーミッションを変更します

```
# chmod 777 /usr/local/src/createdb.sql
```

II. postgres ユーザで行います.

```
# su - postgres
$ cd /usr/local/src/
```

III. データベースを作成します.

```
$ createdb CEASCOREDB
```

IV. テーブルを作成し, 履修環境管理者ユーザを登録します.

```
$ psql -d CEASCOREDB -f createdb.sql
```

5.2. CEAS3.0.5 の動作確認

5.2.1. Windows の場合

I. Tomcat を起動します.

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし, Start service を選択してください.

II. CEAS のログインページへアクセスし, 管理者権限でログインします.

ブラウザで <https://localhost/Core1/faces/index.jsp> にアクセスしてください.

CEAS のログイン画面が表示されたら ID に ceasmgr, パスワードに ceasspass と入力し, ログイン

ンボタンをクリックしてください。ログインでき、管理者のトップ画面が表示されれば CEAS3.0.5 のインストールおよびデータベースの作成は成功しています。

※SSL を使用しない場合は <http://localhost:8080/Core1/faces/index.jsp> にアクセスしてください。

※初回アクセス時は JSP ファイルのコンパイルのため、画面の表示に時間がかかります。

5.2.2. Linux の場合

I. Tomcat を起動します。

```
# /usr/local/tomcat/bin/startup.sh
```

II. CEAS のログインページへアクセスし、管理者権限でログインします。

Windows マシンからブラウザで [https://\[インストールした Linux マシンの IP アドレス\]/Core1/faces/index.jsp](https://[インストールした Linux マシンの IP アドレス]/Core1/faces/index.jsp) にアクセスしてください。

CEAS のログイン画面が表示されたら ID に ceasmgr、パスワードに ceaspass と入力し、ログインボタンをクリックしてください。ログインでき、管理者のトップ画面が表示されれば CEAS3.0.5 のインストールおよびデータベースの作成は成功しています。

※SSL を使用しない場合は [http://\[インストールした Linux マシンの IP アドレス\]:8080/Core1/faces/index.jsp](http://[インストールした Linux マシンの IP アドレス]:8080/Core1/faces/index.jsp) にアクセスしてください。

※初回アクセス時は JSP ファイルのコンパイルのため、画面の表示に時間がかかります。

5.3. サンプルデータの登録と確認

5.3.1. サンプルデータの登録

I. ユーザのサンプルデータ登録

- (1) 管理者 TOP ページ左のメニューより、一括登録用メニューの「ユーザリスト読込」を選択してください。
- (2) ユーザリスト読込み画面上部中央にある、CSV ファイルサンプル ボタンをクリックしてください。サンプルファイルのダウンロードが始まりますので、デスクトップなど適当な場所に保存してください。その際、ファイル名は sample_ud.csv、ファイルの種類は すべてのファイル としてください。
- (3) sample_ud.csv をアップロードします。ユーザリスト読込み画面下部にある、参照ボタンをクリックし、(3)で保存した sample_ud.csv を選択します。アップロードボタンを押して画面が遷移したら、登録ボタンを押してください。ユーザのサンプルデータが登録されます。
- (4) ユーザリスト読込み画面上部にあるグローバルナビゲーション（黒いベルト）の メインメニューをクリックし、管理者 TOP ページに戻ってください。

II. 科目のサンプルデータ登録

- (1) 管理者 TOP ページ左のメニューより、一括登録用メニューの科目リスト読込を選択してください。
- (2) 科目リスト読込み画面上部中央にある、CSV ファイルサンプル ボタンをクリックしてください。サンプルファイルのダウンロードが始まりますので、デスクトップなど適当な場所に保存してください。その際、ファイル名は sample_cd.csv、ファイルの種類は すべてのファイル としてください。
- (3) sample_cd.csv をアップロードします。科目リスト読込み画面下部にある、参照ボタンをクリックし、(3)で保存した sample_cd.csv を選択します。アップロードボタンを押して画面が遷移したら、登録ボタンを押してください。科目のサンプルデータが登録されます。
- (4) 科目リスト読込み画面上部にあるグローバルナビゲーション（黒いベルト）の メインメニューをクリックし、管理者 TOP ページに戻ってください。

III. 科目担任関連リスト読込

- (1) 管理者 TOP ページ左のメニューより、一括登録用メニューの科目担任関連リスト読込を選択してください。
- (2) 科目担任関連リスト読込み画面上部中央にある、CSV ファイルサンプル ボタンをクリックし

てください。サンプルファイルのダウンロードが始まりますので、デスクトップなど適当な場所に保存してください。その際、ファイル名は `sample_ca.csv`、ファイルの種類は すべてのファイル としてください。

- (3) `sample_ca.csv` をアップロードします。科目担任関連リスト読み込み画面下部にある、参照ボタンをクリックし、(3)で保存した `sample_ca.csv` を選択します。アップロードボタンを押して画面が遷移したら、登録ボタンを押してください。科目担任のサンプルデータが登録されます。
- (4) 科目担任関連リスト読み込み画面上部にあるグローバルナビゲーション（黒いベルト）の メインメニューをクリックし、管理者 TOP ページに戻ってください。

IV. 履修情報リスト読込

- (1) 管理者 TOP ページ左のメニューより、一括登録用メニューの科目履修関連リスト読込を選択してください。
- (2) 履修情報リスト読み込み画面上部中央にある、CSV ファイルサンプル ボタンをクリックしてください。サンプルファイルのダウンロードが始まりますので、デスクトップなど適当な場所に保存してください。その際、ファイル名は `sample_ce.csv`、ファイルの種類は すべてのファイル としてください。
- (3) `sample_ce.csv` をアップロードします。履修情報リスト読み込み画面下部にある、参照ボタンをクリックし、(3)で保存した `sample_ce.csv` を選択します。アップロードボタンを押して画面が遷移したら、登録ボタンを押してください。履修情報のサンプルデータが登録されます。
- (4) 履修情報リスト読み込み画面上部にあるグローバルナビゲーション（黒いベルト）の メインメニューをクリックし、管理者 TOP ページに戻ってください。

5.3.2. サンプルデータの確認

- I. ブラウザで <https://localhost/Corel/faces/index.jsp> にアクセスしてください。CEAS のログイン画面が表示されます。
※Linux にインストールした場合は、Windows マシンから [https://\[インストールしたLinuxマシンのIPアドレス\]/Corel/faces/index.jsp](https://[インストールしたLinuxマシンのIPアドレス]/Corel/faces/index.jsp) にアクセスしてください。
- II. ID に `ceasmgr`、パスワードに `ceasspass` と入力してください。管理者のトップ画面が表示されていることを確認してください。
- III. ID に `t00001`、パスワードに `44444444` と入力してください。担任者のトップ画面が表示されていることを確認してください。
- IV. ID に `gh00001`、パスワードに `11111111` と入力してください。学生のトップ画面が表示されていることを確認してください。

これらが確認できれば設定は完了です。

6. その他注意点等

6.1. アップロードするファイルの文字コードについて

リスト読み込み機能の CSV ファイルなどのファイルは、文字コードを「**UTF-8**」に統一するようにしてください。

その際、UTF-8 の CSV ファイルは Excel では文字化けするため編集・保存できません。

また、メモ帳でも UTF-8 のファイルを編集・保存しないようにしてください。ファイルの始めに BOM という見えないデータが付加されるため、CEAS で読み込むことができなくなります。

「TeraPad」や「秀丸」など、文字コードを指定して編集できるエディタで編集してください。

6.2. ログイン画面のタイトル・画像の変更方法について

ログイン画面上部にあるタイトル・画像を編集することが可能です。詳細な方法は CEAS Community Page の CEAS 導入ガイドより「CEAS3 系ログイン画面カスタマイズ手順書」をダウンロードし、参照してください（ダウンロードにはログインが必要です）。

CEAS3.0.5 インストールメモ

CEAS のご利用ありがとうございます。CEAS について分からない点や要望がありましたら、CEAS Community Page の掲示板へご質問下さい。また、CEAS Community Page ではバージョンアップパッチの公開やCEASに関する情報などを定期的に更新しております。

CEAS Community Page はこちら ⇒ <http://ceascom.iecs.kansai-u.ac.jp>